

いばらきの

白慢!

日本の絹織物の原点、結城紬



製作工程の1つ
「拵くり」

世界に誇る伝統の結城紬。実は、日本最古の歴史を持つ紬織物であることを、ご存知でしょうか。

結城紬の原型は太い生糸で織った「あしぎぬ純」という絹粗布で、奈良時代には献上品として上納されていたと言われていました。その後、室町時代には「結城紬」の名で幕府などに献上され全国的にも有名となり、江戸時代には当時の百科事典と言われる『わかんさんざいすえ和漢三才図会』に最上品の紬として紹介されていました。

結城紬は、全ての製作工程が手作業で行われます。その中でも、「糸つむぎ」、「かすり拵くり」、「しばた地機織り」の3工程は、1956（昭和31）年に国の重要無形文化財に指定されました。また、世界に誇るべき日本の技として、2010（平成22）年にユネスコ

無形文化遺産にも登録されています。世界でも類を見ない、手でつむいだ糸を使用する結城紬。手作業による全工程を経て出来上がった結城紬は、軽くて温かく、洗い張りをするたびに光沢を増し、けいぼ毛羽も取れて風合いがよくなっていきます。反物だけでなく名刺入れや、財布、ショール、ネクタイなどさまざまな紬製品が作られています。

結城市内には、結城紬の織り体験や、ハンカチなどの染め体験ができる施設があります。結城紬をより身近に感じに出掛けてみませんか？

いばキラTVの動画番組「絶景茨城」（QRコード）でも結城紬を紹介していますので、ぜひご覧ください。

☎ 県産業技術課 ☎029(301)3584

☎ 県工業技術センター繊維工業指導所 ☎0296(33)4154

